

## 「MMM conference 2022」に登壇して



目で見ると  
海外論文発表

三木 颯馬\*

Presentation at MMM conference 2022

Key Words : spintronics, skyrmion, conference on site

<参加会議名>

The 67th Annual Conference on Magnetism and Magnetic Materials

<開催場所> アメリカ合衆国、ミネソタ州、ミネアポリス

<渡航期間> 2022/10/31~11/4

<発表タイトル>

Spatial control of the nucleation and dynamics of magnetic skyrmions by FIB irradiation

本会議は米国電気学会 (IEEE) が主催する国際会議であり、磁性体分野最大の国際会議3つのうちの一つである。本会議の登壇は前々回、前回と続けて3回目となるが、COVID-19の影響により今まではオンライン参加であり、今回が初の現地参加となった。初めての海外での発表に緊張する一方、海外の研究者と対面でディスカッションできる貴重な機会に心を躍らせていた。

本発表では、磁性体中に発現し粒子のようにふるまう「磁気スキルミオン」を、コンピューターにおける電子のような計算キャリアとして扱うための回路作製技術について報告した。筆者はあまり英語が得意ではなく、特に初めて本会議に参加した際には質問を聞き取ることが出来ず、うまく答えられなかったという苦い経験がある。しかしながら今回の登壇では、今までの発表経験が糧となったのか、発

表も質疑応答も (自己評価ではあるが) 非常に良い出来であった。自身の成長を実感するとともに国際会議での発表に対する苦手意識がかなりなくなったのではないかと感じた。

ウェルカムレセプションやビアホールでは単なる研究の話だけでなく、海外での研究生活など対面ならではの情報交換も行い、さらには研究テーマが上手く合致したことでヨーロッパの研究室の見学に誘われもした!このような密な交流やチャンスの巡り合わせはやはりオンライン学会では得ることが出来ず、現地開催の最大のメリットだと思われる。さらに会期を経るごとに知人の知人、さらにその知人...というように今回の参加でかなり多くの人と知り合い、一気にアカデミックにおけるコミュニティが広がった。苦楽を共にする世界中の研究者と多く繋がれたことで、これからの研究人生がより楽しく充実したものになるだろうと信じてやまない。

最後に、生産技術振興協会にはこのような貴重な機会に対して多大なるご支援を賜り、衷心より感謝申し上げます。



発表の様子。



\* Soma MIKI

1995年5月生まれ  
大阪大学 基礎工学研究科 物質創成専攻 物性物理学領域 博士前期課程修了 (2021年)  
現在、大阪大学 基礎工学研究科 物質創成専攻 物性物理学領域 鈴木義茂研究室 博士後期課程2年 修士(工学) 専門/物性物理、スピントロニクス  
TEL : 06-6850-6427  
E-mail : miki@spin.mp.es.osaka-u.ac.jp



ウェルカムレセプションの様子。当日はハロウィンで参加者は仮装して会食を楽しんでいた。

ビアホールの様子。研究者たちが活発に議論していた。